

参加者
倍増!

家族向け・入門者向けの ROBO-ONE

第3回

ROBO-ONE

<http://www.robobone.com>
<http://www.robobone.com> **J-class**



まつばら たくや
文/(有)ニコ 松原 拓也

第6回ROBO-ONE大会の前日、2004年8月6日(金)にROBO-ONEの「入門者向け」クラスとして「ROBO-ONE J-class (以下、J-class)」が開催された。

2つの競技クラスを統合

家族チームによる競技クラスである「Junior with Family (以下、Jr.w/F)」は過去に2回(J-classは1回)ほど行われてきたが、今回からJ-classに吸収されて1つに統合された。ただし、Jr.w/Fという概念は残り「家族・兄弟・いとこなどのファミリー2名以上」「ロボットの操作者は中学生まで」であれば、家族チームであると認定される。

J-classの参加者は全34チームで、前回と比べて倍増(前は両クラス合わせて17チーム)家族チームはこのうち11チームで全体の約3割を占めた。なお、10万円だった優勝賞金は30万円に増額されている。



写真1 第1回戦。谷中6丁目チーム「さまーばけーしょん1」(写真左)のベース機体は「KHR-1」。素早い歩行で予選1位を獲得した。一方、SISOさんの「G-Tune」(写真右)はABS製のフレームと「しゃがみ歩行」が特徴。試合は決定打を欠いて時間切れとなるが「G-Tune」の判定勝ちに。

自由度の制限を撤廃

ロボットの規格は身長50cm以下、重量1.2kg以下、足裏の長さは20cm以下(脚の長さの70%以下)で、旧J-Classに統一された。「有線による操縦」という義務付けは、今までどおり。

最大の変更点は、「自由度は10以下」というJr.w/Fの制限がなくなったこと。これで、関節・モーターを好きなだけ増やせるようになったが、1.2kgという重量制限で抑制されている。重量無制限のROBO-ONE大会に比べて、軽量小型へのシビアな配慮が必要だ。

「KHR-1」が大人気

予選は、前回まで「歩行5歩以上、屈伸



写真2 マスタースレーブ方式のコントローラで注目を集めた、ゆみファミリーの「マジンガア Jr.」ボディは「KHR-1」ベースで「マジンガア」より二回りほど小さい。なお、光子力研九所のサイト(<http://www.majingaa.com>)では、「バーチャルKHR-1」というシミュレータを公開中。

1回以上、横歩き、ボックスダンス」といった演技が規定されていたが、今回から、歩行のタイム計測のみというシンプルなものに変更された。観客や審査員へのパフォーマンスが考慮されないのが、J-class流。あとファミリー参加のチームへの特典として、2秒だけタイムが減算されたが、1位と16位とのタイム差は1分近くもあって、メリットはあまり感じられなかった。

予選では実質30台のロボットが挑んだが、ゴールへ到達できたのは20台だった。そこから成績上位16台が選出され、決勝トーナメントに進んだ。

驚いたことに上位16名のうち、7名(約半数)が近藤科学の二足歩行ロボット開発キット「KHR-1」を使用していた。「KHR-1」は、優れた運動性能(前回、プロトタイプJ-Class優勝で証明済み)と、コストパフォーマンスの良さ(税込126,000円)



写真3 第2回戦。前回優勝したスミイファミリーの最新作「ありまる3」(写真左)と、名桜大学大石ゼミチーム「ちゅら島3号」の一戦。3ラウンドの接戦の末、僅差で「ありまる3」が制した。決め手は、のけぞり姿勢と、ウチワであおぐようなパンチ攻撃。